

インパクト志向金融宣言

第12回ワーキングレベル会合

2024年11月5日(火)09:30～11:30
オンライン・リアル同時開催

インパクト志向金融宣言

Japan Impact-driven Financing Initiative

本日のアジェンダ

1. 定足数確認、議長選出(決議)
2. 新規署盟機関ご挨拶
3. 報告事項
 - (第1号報告事項)事務局等からの報告事項
 - (第2号報告事項)分科会/企画チーム活動報告
4. 審議事項:本宣言の活動の振り返りと来年度の注力分野について
5. 今後の予定、事務局連絡

(名刺交換会) 11:30~12:00

1. 定足数確認・議長選出

- 定足数の確認
- 議長の選出(決議)
 - 運営規程第14条に基づき、**運営委員会委員長**の議事運営により、総会の議長を選出する。

2. 新規署名機関の紹介

- 署名機関数は83社へ（署名金融機関76社、署名協力機関7社）

署名日	署名金融機関	署名協力機関
9月1日付	株式会社ゆうちょ銀行（ご欠席）	-
10月1日付	大同生命保険株式会社 太陽生命保険株式会社	-
11月1日付	-	Ridgelinez株式会社

- ~~2024年7月 昨年のプロGRESS・レポートについてのアンケート実施~~
- ~~2024年8月 意見交換会実施(融資・債券分科会)~~
- ~~2024年9月 ガイダンス発表~~
- 2024年10月末 インパクトファイナンス残高他提出
- ~編集・デザイン等作成期間~
- 2025年1月29日公開

- 運営委員への立候補・退任等をご希望される方は早めに事務局までご連絡下さい。運営規程に従い選挙の可能性もあります。

第 25 条(構成)

1. 運営委員会は、運営委員により構成されるものとする。
2. 運営委員は、署名金融機関の中から、年次総会の決議によって、12 名程度選任されるものとする。
3. 運営委員の任期は、選任された年次総会が開催された日から次の年次総会までとし、再任を妨げない。任期中に事情により運営委員を辞任せざるを得ない場合は、当該運営委員は、自らが属する署名金融機関の他の役職員を残りの任期に限り後任として指名することができる。
4. 運営委員は、ひとつの署名金融機関から最大でも 1 名とし、2 名以上の運営委員を同時に選任することはできない。
5. 運営委員になることを希望する署名金融機関は、前項の規定により運営委員の選任を行う定時総会の 20 日前までに事務局宛にその旨を書面にて提出するものとする。運営委員を希望する者が第 2 項の定員より多い場合は全署名機関による投票により決定する。

(注)なお、選挙が必要となる場合、選挙実施日が1/29と重なることを防ぐため、年次総会の開催期間を1/23～29の一週間と便宜的に設定し、総会期間初日にメール投票等で選挙を行うことを想定。

- 日時:1月29日 12:00—16:30(TBD) ランチ
- 場所:丸ビルコンファレンススクエア
- 協賛:ティーロープライス様
- 後援:金融庁様(予定)

～テーマ:新しいエンゲージメント潮流とインパクトとの接点～

- インパクトを創出しながら更なる企業価値の向上に向けて、金融機関はどのような働きかけをしているのか？
- 金融機関によるエンゲージメントによって企業の成長・インパクト双方のポテンシャルを引き出し、成長に導くことに成功したケーススタディを通じて、日本のインパクト投資の "伸びしろ"に迫る
- また、セッションにおいては、エンゲージメントによる成果などを含め、インパクト投資に関する開示に関する各社の取り組み状況も合わせて紹介していただく。

- 別添資料

- 1月の総会にて予算を策定するにあたり、収入の想定を置くため、署名機関の2025年度以降の継続意思を確認する必要がある
- 11月5日WL会合時点で、説明の上、署名継続意思確認アンケートを実施したい
- なお、現時点で未決定も想定されるため、段階的に意思確認を行っていく

金融グループを形成する署名金融機関については、自走化後の署名金融機関の構成や分担比率について事務局より個別に確認を始めることとしたい

- 何社加盟するのか
- 主たる金融機関はどこか(持株会社or 主たる事業会社)
- 年会費分担比率はどうか

運営委員会の改組(コンテンツ・ガバナンス)

背景

- 分科会の議論の中で「他の分科会とも議論したい」という声がある
- 通常の運営委員会では分科会の議論が十二分に共有されず、分科会を超えた議論に至らない
- 手段的IFSIとの類似点・相違点や、システムレベルリスクのような、既存の分科会の設計では議論されない新たなテーマについて、どのような場で議論されるべきか、適切な場が必要

現行

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
WL会合	○			○			○			○		
運営委	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○



運営員会を2種類に変更し、それぞれを交互に実施： G運営委:ガバナンス運営委員会 /C運営委:コンテンツ運営委員会

変更後

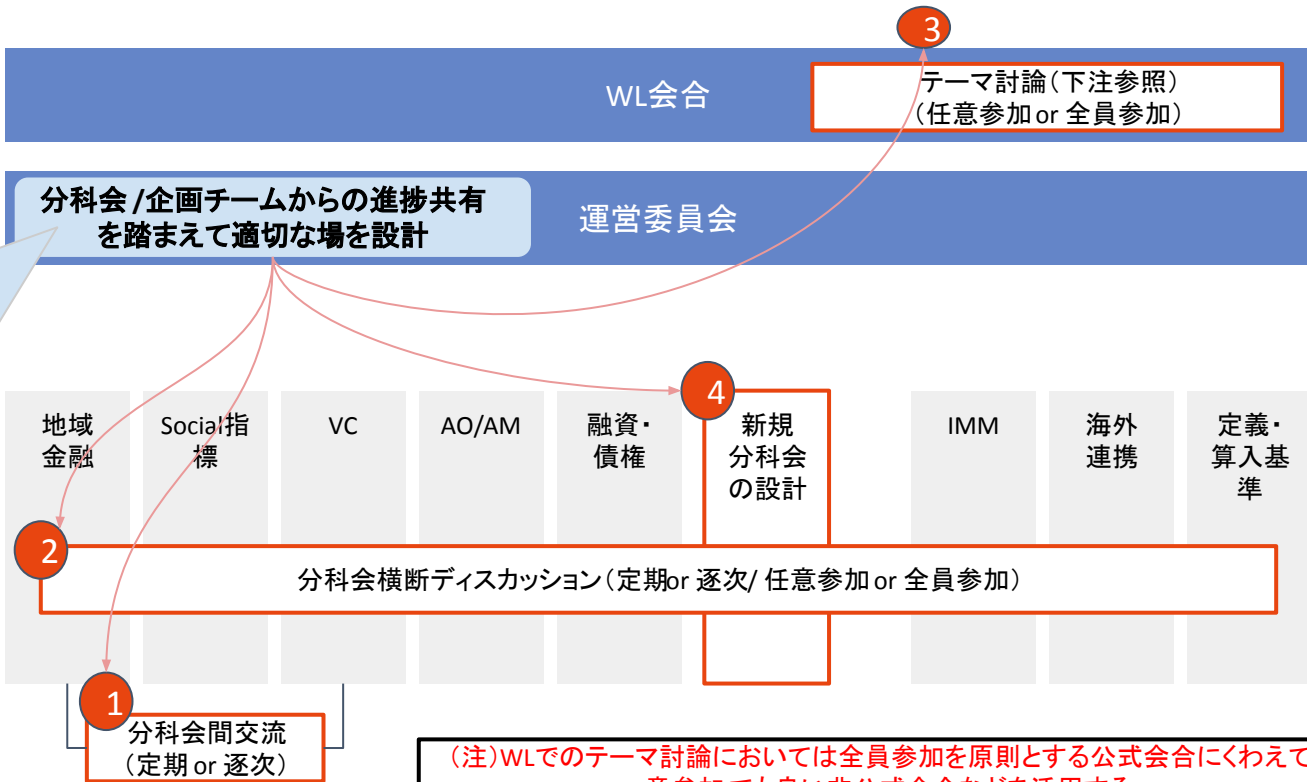
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
WL会合	○			○			○			○		
G運営委	○			○			○			○		
C運営委		○	○		○	○		○	○		○	○

分科会横断での議論のあり方について

分科会報告をベースとした議論としつつも、常に中期計画の進捗等を意識しながら、宣言全体の活動のあり方についても議論を行うようにする。

分科会からの報告事項(案)

- 中計
- 中計に対する現在地と課題
- 活動内容から得られた Findings
- 分科会横断で議論すべきテーマ(あれば)



(注)WLでのテーマ討論においては全員参加を原則とする公式会合にくわえて、任意参加でも良い非公式会合などを活用する。

コンテンツ運営委員会 オブザーバー参加メンバーについて

- 住友生命 田中さん
- かんぽ生命 小林さん
- 農林中金公庫 岡本さん
- 三菱UFJ銀行 谷ヶ崎さん
- SBI新生銀行 平田さん

- 別添資料

- 別添資料

企画チーム（※）	座長（2024年10月時点）
算入基準検討チーム	事務局(SIIF)
IMM企画チーム	今田 克司(SIMI)
海外連携企画チーム	藤井 昭剛ヴィルヘルム(UntroD Capital Japan株式会社)/中村 将人(GLIN)
分科会（※）	座長（2024年10月時点）
地域金融分科会	金井 司(SMTH)/山崎剛（静岡銀行）
ソーシャル指標分科会	松原稔(りそな)/石井規雄(京都信用金庫) /朝野美里（SBI新生銀行）
ベンチャーキャピタル分科会	堤世良(DGインパクト・ソリューション)/秦雅弘(GLIN)
アセットオーナー・アセットマネジメント分科会	松本陽子(ティーロープライス)/安間匡明(SIIF)
融資・債券分科会	末吉光太郎（みずほ銀行）/清水一滴（大和証券）/橋爪麻紀子（日本総研）
インパクト志向企業価値向上アライアンス	安間匡明(SIIF)

主催/共催イベント

2024年10月23日	Japan Networking Lunch	GIIN Impact Forum
2024年11月11日	GET Fund	IDFI主催
ELT第5弾	環境エネルギー投資、LP出資者	ELT企画
2025年1月29日	WL会合/プロGRESSレポートプレス発表 /コンファレンス	IDFI主催/TRP協賛

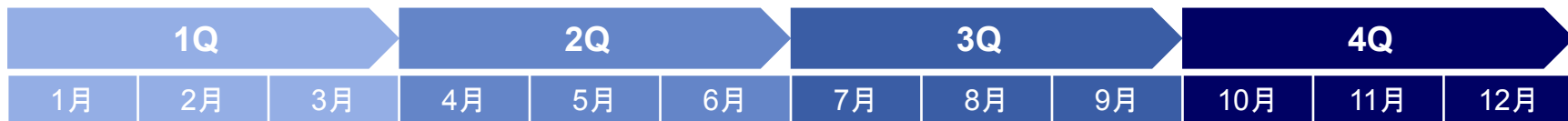
背景・目的

- 宣言においては、ビジョン・ミッション、TOC、宣言を作成し、それに基づく中期計画のもと活動を進めてきた
- 中期計画の目標達成年度2025年まで残すところ1年
- 2025年1月には年度計画を作成、2025年中に次期中計を作成する必要があり、その2点を念頭に来年の注力点について議論を行いたい

議論の進め方

- 先ほどの分科会報告及び分科会の来年の活動注力分やを踏まえたうえで、宣言全体として来年の注力分野はどうあるべきか
- 中期計画で定めた活動内容について、2025年の達成見込みを振り返り、未達の可能性が高い項目の対応検討など、今期中計を超えた取り組みの方向性を議論

定期の年次総会・ワーキングレベル会合、運営委員会の開催に加え、自走化 PTによる会費提案を踏まえ、運営規程の改正が行われた



総会

年次総会・
ワーキングレ
ベル会合ワーキングレ
ベル会合ワーキングレ
ベル会合ワーキングレ
ベル会合運営規程
導入会費に関する
規定導入

最終報告

自走化PT

運営委
員会

今年は2分科会が新たに立ち上がり、計6分科会で、定期的な会合・イベントを実施
計52回開催(予定含む) [2024年1月～12月の実績]

	1Q			2Q			3Q			4Q		
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
分科会(縦ぐし)												
VC	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
地域金融	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
S指標	●			●		●	●	●	●	●		
AO/AM	●		●		●		●			● ・ セミナー	●	
融資・債券	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
ICEA							設置		●	● ・ セミナー	●	

ウェビナー・イベント

計18回開催[2024年1月～10月の実績]

* プログレスレポートの対象機関である 2023年10月～2024年9月は22回開催

参加登録数 2,200人(2024年10月末時点、一部含まれないものもあり)

2023年)

- 11/2 第一弾ELT企画(三井住友トラストH/日本生命/大和証券)
- 11/9 ヨーロッパクリーンテック投資家と語る
- 11/24 GIIN Impact Forum学びの共有会
- 11/28 米国ファンド“Palladium”と語る

2024年)

- 2/19 上場株におけるインパクト投資の本質と企業価値*
- 2/22 システム・チェンジS2G Ventures の取り組み*
- 3/6 ELT企画第2弾(かんぽ生命/肥後銀行/アセットマネジメントONE)
- 3/8 D&I浸透に向けた女性向けネットワーキング
- 3/8インパクトのABC分類と持続可能性の境界線の考え方*
- 3/15 インパクト・マネジメント実践の主流化に向けた取り組み*
- 3/28,4/4 PRIのProgression Pathway Framework(PPF)勉強会

- 5/16 ここがヘンだよインパクトファイナンス開催(SID)
- 5/17 GIINと語る融資のインパクトファイナンス
- 5/24 海外DebtFundのLendableと語る
- 6/17 TIIPと語るシステムレベルインパクト投資
- 8/22 SIIFの考えるシステムレベル投資
- 8/28 ELT企画第3弾(みずほFG/第一生命/りそなHD)
- 9/6 インパクト・フロンティアーズの活動
- 9/19 インパクトの金銭価値化の「今」と課題
- 9/26 金融機関のインパクト開示とインパクト志向な社会
- 10/3 ELT企画第4弾(横浜銀行、肥後銀行、コミュニティバンク 京信)
- 10/4 インパクト投資から見える企業価値(協賛:日本生命/TRPジャパン)
- 10/15 Impact Disclosure Taskforceによるガイダンス

*SIMI共催

- Green: 予定通り達成見込み
- Yellow: 一部未達の可能性あり
- Red : 達成が難しい可能性あり・要議論

	活動内容	優先度	達成見込み	補足説明	
1	インパクトファイナンスの実践を支援する包摂性の高い活動を継続する	署名機関間の情報共有やピアラーニングによる実践の悩み解決、実践の蓄積、象徴的事例の創出	○	●	
		海外の最新動向やフレームワークの紹介	○	●	
2	先進事例・データ・ツールを意欲的に収集・分析し、指標や指針を開発する	先進事例の情報収集・共有(クロスオーバー投資や非上場・上場の連結の好事例、IMMや開示の好事例等)	○	●	
		インパクト関連データの整備・作成・集約・公開※)	△	●	
		参加金融機関のベンチマーク調査(IMM実践等)・ピアレビュー	△	●	但し公開について要審議
		社会性指標の開発、基準や指針の整理、コンセプト開発	○	●	
3	人材の育成を推進する	金融機関がインパクトファイナンスを推進していくために必要な多様性ある人材の育成、確保	○	●	
4	活動内容や成果、インパクト創出事例を定期的・戦略的に発信する	活動内容や成果に関する情報発信(対金融業界、対事業会社、その他対マスメディア向け)	○	●	
		インパクト大賞、認証制度の創設	△	●	
5	戦略的エンゲージメントを推進する	対金融機関内部(金融機関経営者を含む)とのエンゲージメント	○	●	
		対政策立案者(政府・自主規制機関)、資金の出し手(個人、年金基金)、投資先、証券会社等とのエンゲージメント	○	●	
6	プラットフォーム運営・活動基盤を強化する	自走化計画の策定・移行	○	●	
		ガバナンスや運営規定の策定、情報蓄積・共有の仕組み構築、ブランド力の強化、包摂性の維持、あたらしい金融の在り方検討	○	●	

2024年の活動計画(全体/企画チーム主導)

	中計	活動内容	役割
分科会間の連携強化	① ②	<ul style="list-style-type: none"> IMMIに関する各分科会の取り組みに横串を刺し、情報共有、相互乗り入れの仕組みとして各分科会から「IMM担当」を任命し、定期的(月1回を目途)にIMM担当会議を開催。各分科会におけるIMM関連のニーズや取り組みについて情報交換、相談、協議を実施し、新たなIMM企画も推進 	IMM
インパクト関連情報・データ整備	②	<ul style="list-style-type: none"> 「IMM担当会議」や運営委員会での討議を経て、宣言署名機関(アセットクラス問わず)のため「IMMの基本的あり方」文書を作成 	IMM
		<ul style="list-style-type: none"> 先行する欧米事例の理解、IMMIに関する海外の知見・最新動向を紹介するイベントを計画・実施 IMM含め、インパクトファイナンスに関する海外のスタンダードや方法論をアップデートし、国内との差分を整理・共有 	IMM+海外連携
		<ul style="list-style-type: none"> インパクトファイナンスの算入基準に関する海外の基準との意見交換会を催すなど、海外の知見も活用しながら宣言としての基準の調整に貢献 定義・算入基準のさらなる進化とガイダンスのアップデート。特に、融資における「マネジメント」の要件について議論を、融資・債券分科会と連携し推進 	算入基準+IMM(+融資・債券分科会)
		<ul style="list-style-type: none"> インパクトと企業価値の整理調査/研究の推進 	事務局
人材育成に関する議論の深化・計画策定	③	<ul style="list-style-type: none"> 分科会でのピアラーニング継続、人材育成に必要な追加的取り組みの整理 	事務局、IMM、海外連携
インパクト大賞の検討	④	<ul style="list-style-type: none"> インパクト大賞の創設検討 	事務局、運営委員有志、アドバイザー
インパクト関係情報発信のさらなる強化	④	<ul style="list-style-type: none"> 書籍出版、イベント開催、海外向け発信 	事務局、海外連携
戦略的エンゲージメントの取組み強化	⑤	<ul style="list-style-type: none"> 特に経営者エンゲージメント、AO/AM向けエンゲージメントの強化 	事務局(+AO/AM分科会)
自走化方針の決定	⑥	<ul style="list-style-type: none"> 7月WL会合での決議 	事務局、自走化PT
他のプラットフォームとの戦略的連携	-	<ul style="list-style-type: none"> インパクトコンソーシアム、GIIN等海外機関との連携強化 	事務局、海外連携

①リソース不足に関する現状課題と対応

- インパクトファイナンス人員が「十分に足りている」は **わずか5%**。
- **約4割の企業が「増員は行わず現状のリソースで育成を強化」** 約2割が「**新規採用を含めて積極的に増員し強化**」
- 人材育成は「外部セミナー」「外部のイニシアチブへの参加」などの手段が用いられている

②人材育成に関する現状課題と対応

- しかし、現状に関して「満足している」は **16%**。8割が「**どちらとも言えない**」か、「**あまり満足していない**」
- 組織内の育成に関する理解浸透が不十分、社内にノウハウが蓄積されていない中で、**外部セミナー等だけでは深い理解に至らない点が課題**
- 対応として、国内外での先進事例や実務人材でのピアラーニングを重視する企業が多いものの、事例がまだ少ない中で情報収集に時間がかかる、自社の取り組みに落とし込むことのハードルの高さ、そもそも定期的な人事ローテーションが行われる中で **ノウハウを蓄積する仕組み** を作ること等が課題

③IDFIに対する期待

- 「初学者・実務者」向けの基礎的コンテンツの提供、情報交換の場の期待が高い
- 自社のビジネスでの「**実務への落とし込み**」が挙げられていることや、リソース不足に対しては「現状のリソースの育成強化」が多く挙げられており、**インパクト実務者育成は有効的と思われる**
- 「資産別の事例」「中小企業の取組事例」の共有ニーズが挙げられており、よりインパクトファイナンスを「**実務**」に**落とし込み事例創出に繋げていく支援** が求められている模様

【社会課題解決・システムレベルリスクについて】

- 今の取り組みの延長線上に、**本当に課題解決に必要な資金動員が進むのか**と課題感がある。また、本宣言署名機関によるインパクト投資は**合理的なリスクリターンが前提**。取れるリスクには限界があり、**システムレベルのリスク対応や社会課題の解決は難しい**。
- 社会のシステムは個々の要素のインプットとアウトプットが結びついているものであるから**システムを簡単に変えることはできない**。次の中期計画として、システムレベルリスクについても掲げるべき
- 必要な議論としては
 - 例えば**ロジックモデルをステークホルダーが共有する** ことによって誰が裨益するのかを明確にすることで参加者を促す
 - 本当にどこがツボなのか、**横串で深掘りして議論**していくべき。(事例としては、人口減少に対する対応等)
 - **金融機関同士が連携**し、投資から融資への接合を図り、死の谷を作らせない等の連携(銀行に従来以上のリスク許容度が求められるかもしれない)
 - 特に、融資・債権の領域で既存の取引先があることを前提に進めていることもあるので**どこにどうお金を流していくべきか** 議論すべき。
- 本宣言だけでは限界があり**連携が必要**。
 - 公的セクター等、もう少しリスクが取れるセクターとの連携を強化すべき
 - コンソーシアムとの連携を議論すべき

【より具体的な取り組みへの提言】

- ピアラーニングや事例共有、海外連携など本宣言に参画していることの意義高い
- 融資や間接金融という観点で、**海外事例がより充実**していくと良い。
- 会社としてインパクト投資を推進する時に、SDGsに既存の取り組みを当てはめてラベルをつけているのが実態。全国に支店や支社がある大規模金融機関において**本社が推進していくことに課題感**。これらのベストプラクティスについても共有してほしい。
- プロGRESSレポートの策定において、**何をやっているのかを当事者意識を持って作成すべき**。発信するから数字を集めるのではなく、それを持って実態を**振り返り報告・共有する**など。それができれば、必然的に中期経営計画も進捗が進むのではないか。

議論

- 中期計画で定めた活動内容について、2025年の達成見込みを振り返ってみて、未達の可能性が高い以下の項目について、どのような対応が必要そうか？
 - 人材育成についてはどのように考えるべきか
 - その他に見落としている点などはないか
- 中期計画の最終年度となる2025年で特に注力すべきポイントは何か？それはなぜか？

今後の予定、事務局連絡

■ 今後のワーキングレベル会合

2025年 1月 29日(水) 9:30~11:30(コンファレンス同日開催)

2025年4月24日(木) 9:30~12:00

2025年7月24日(木) 9:30~12:00

2025年10月

2025年1月